

» KYODO

協同

新時代をひらく協同

— 持続可能な農業と地域社会のために —



特集

経済事業の
部門別損益の改善に向けて

～改善策と改善目標額が紐付いた計画の策定と実践～

大会決議実践REPORT

JA兵庫西は、消費者の需要に応え、
農業者の所得を向上するために、タ
マネギの周年販売体制を整えました。

» 詳細は裏表紙へ

大会決議実践REPORT

～ 持続可能な農業と地域社会のために ～

／ 今月は ／
JA兵庫西

第34回兵庫県JA大会(平成30年11月)では「新時代をひらく協同」をメインテーマとして、JAグループ兵庫が今後取り組むべき事項を決議しました。地域の実態に応じてこの大会決議を実践するJAの取り組みを、SDGsを交えて紹介します。



タマネギの周年販売体制の確立と生産拡大に向けた支援



収穫作業の負担を農機によって軽減



買い取り後のタマネギを貯蔵庫で保管

JA兵庫西では、直売所で年間を通じてタマネギを販売できる体制を構築している。主に大規模農家を対象として、買い取り販売や生産拡大の支援を行い、農家の所得向上を実現。タマネギを買い取り販売の品目にしたのは、年間を通じて消費者の需要に合わせた販売が可能で、販売価格を維持できることが大きな理由だ。

JAでは平成29年産のタマネギから買い取り販売を実施している。買い取ったタマネギはJAが整備した貯蔵庫で保管・管理し、消費者のニーズに応えながら、委託販売を行う出荷者と競合しないよう出荷している。また、生産されたタマネギを全量買い取るため、農家の所得は安定し、安心して生産を続けることができる。

生産面では、播種から収穫までの機械化一貫体系を実現するため、農機の貸し出し体制を整えた。機械化に

よって作業の負担が少なくなるのはもちろん、農機の運搬や維持管理をJAが行うため、農家はさらに時間とコストを抑えられる。このほか、営農指導員による農家への巡回も欠かさない。防除や除草の指導はもちろん、定植の密度を調整して、売れやすい大きさのタマネギを生産することにも注力している。

このようなJAの支援体制によってタマネギの栽培面積と収量は、買い取り販売を開始した平成29年度では3.6畧、144トだったものが、令和元年には16畧、685トまで拡大した。

JAでは、生産の維持やさらなる拡大に向けて、担い手の育成にも取り組むほか、販路と消費の拡大にも力を入れる。



SDGs(エスディーゼーズ)とは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、全ての人々が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指して、2015年、国連で採択された。「17の目標」と「169のターゲット」で構成されており、実現のために、先進国、途上国、政府、企業など、全ての関係者による連携した行動が求められている。